



ふるさとの**自然**

23

波と一緒に رفتり来たり ミユビシギ

波打ち際を走るミユビシギ。冬の九十九里浜を代表する鳥です。

○砂浜が大好き

ミユビシギはスズメぐらいの大きさのシギです。全身白っぽい色でくちばしは長く、丸っこい体で目のクリツとした鳥です。鳥類の足の指は、普通4本ですが、ミユビシギは後ろ指がなく3本。これが名前のもとになっています。いつも群れを作り、砂浜や干潟、海辺の岩場などで、一日中過ごしています。市内の海岸でも秋から春にかけて数十羽から、ときには百羽を越す群れが見られます。

○超スピードで走り回る

ミユビシギの餌は、波打ち際の砂の中に住む小さな虫や貝、ゴカイ、打ち上げられた魚などです。九十九里浜では、主にスナホリムシという5mmほどの小さな虫を食べています。スナホリムシは波がやって来ると砂から出てきて餌を食べ、波が引くと素早く砂の中に潜ってしまいます。そのためミユビシギは、スナホリムシが潜る前に捕まえようと、波が引くと急いで海に向かって走っていき、そして波がやって来ると、慌てて砂浜の方へ逃げてきます。波と一緒に رفتり来たりしながら、一日中走り回って餌を探しています。

○北極圏からオーストラリアまで

ミユビシギは、夏にシベリアや北アメリカの北極圏で子育てをし、夏の終わりごろ日本に渡ってきます。そのまま日本で冬を過ごす鳥もいますが、はるか南のオーストラリアまで飛んで行くものもいます。旭市の海岸は渡りの中継地として、また冬越しの場所として、とても重要です。

(齊藤敏一)

イキイキ

あさひっ子



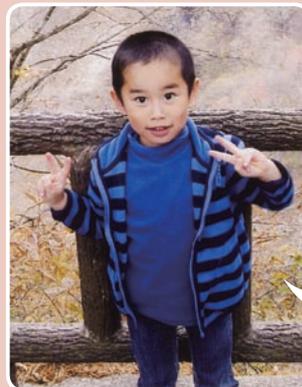
じゅりあん たける
寿里庵・武・ヘンリーちゃん
平成23年5月5日生
両親=ビクスラー
ジョンさん
麻友さん〔二〕

「ぼくはビクスラー家のリトルプリンス★」

こうき
光希ちゃん(左)
平成23年5月9日生
しゅうせい
終成ちゃん(右)
平成21年6月17日生
両親=齊藤寛郎さん
恭子さん〔後草〕



「かわいい弟が生まれて、ぼくお兄ちゃんになったよ!! 仲良くしようね」



たくや
拓矢ちゃん
平成19年12月29日生
両親=遊橋洋志さん
千栄子さん〔二〕

「日光華厳滝へ行って、ハイチーズ」

“イキイキあさひっ子”を大募集

掲載を希望する人は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595 旭市二の1920・☎62-8070)へ。

対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、旭市保健センター、飯岡保健センター、秘書広報課、各支所にあります。

編集こぼれ話

新成人になられた皆さん、おめでとうございます。成人式の取材に行ってきました。友人たちとの再会を喜ぶ新成人たちの姿や、元気いっぱいの笑顔を見ていると、取材している自分も何だかうれしい気持ちになって、元気を分けてもらったような気がしました。何人かの新成人にインタビューをさせてもらいましたが、みんな、しっかりした考えを持っていて、びっくり。はきはきと答える姿に、自分も、もっとしっかりしなければいけないなあと思ってしまいました。(コ)

くらしのカレンダー

3日(金) 節分会(市内各寺・神社で開催)

5日(日) 第23回旭市飯岡しおさいマラソン大会(午前8時~ いいおかユートピアセンター)

11日(土) 建国記念の日

16日(木) 市県民税、所得税の申告受け付け開始(~3月15日(木))